

◆6000人の命を救った日本のシンドラ—杉原！感動の実話がオペラに！◆

杉原千畝物語 オペラ「人道の桜」



Sempo Sugihara JINDO no SAKURA

作曲 安藤由布樹
 台本 新南田ゆり
 指揮 飯坂 純
 演出 鳴海 優一
 統括合唱指揮 中橋健太郎左衛門
 合唱指揮 安藤由布樹
 女屋 哲郎
 舞台監督 藤田有紀彦
 照明デザイナー 山森 栄治
 (FILLSEAD)
 監修 渡辺 勝正
 (大正出版/杉原千畝研究会)

6000人の命を救った杉原千畝
 助けられたユダヤ人の子孫は
 現在数万人になり、今では世界中から
 千畝に感謝の意が表明されている



私のしたことは
 外交官としては 間違っ
 ことだったのかもしれない。
 しかし私には 頼ってきた
 何千人もの人々を
 見殺しにすることはできな
 かった。大したことをした
 わけではない。
 当然のことをしただけです。

スーパーバイザー 鈴木 紘一
 エグゼクティブ・プロデューサー 新南田ゆり
 総合プロデューサー 松尾 史子
 (東京オペラ・プロデュース)

◆お申込み・お問い合わせ◆
東京オペラ・プロデュース
 (受付時間 13:00~19:00)
 TEL 03-3530-5181
 FAX 03-3530-5182
 〒174-0074東京都板橋区東新町1-7-11-1F
 operaproduce@jcom.home.ne.jp

(写真提供 NPO杉原千畝命のピザ)

	昼 14:00	夜 18:00			
杉原千畝	大貫 史朗	女屋 哲郎	グッジェ	小林 重昭(昼・夜)	朝日湯の主人
杉原幸子	新南田 ゆり	羽山 弘子	菊池文彦	橋本 昌一(昼・夜)	時計屋
大橋忠一	角田 和弘	濱松 孝行	軍人A	藤井 昌雄(昼・夜)	美恵子
ニシユリ	織部 玲児	羽山 晃生	軍人B	久保田信行(昼・夜)	美智子
バルハフティック	土崎 譲	滝川 かをん	サリー	吉田 翔唯(昼・夜)	サイモン
はる	正岡美津子	北澤 幸	滝川	山本 康治(昼・夜)	デボラ
サラ	勝倉小百合	森 裕美子	達之助	今泉 健志(昼・夜)	リンダ(ダンサー)
ベンジャミン	中村 祐哉	影山 慎二	澄江	小林 和子(昼・夜)	早大生・外交官
アンナ	辰巳真理恵	永井 千絵	敏子	野久尾智美(昼・夜)	早大生・外交官
リンゴ売り娘	みすぎ 絹江	溝呂木さをり	加藤さん	清家 洋子(昼・夜)	中澤 和輝(昼・夜)

演奏:杉原千畝メモリアルオーケストラ
 合唱:杉原千畝オペラ合唱団

2017年 **3月25日(土)** 14:00 開演 完全入れ替え制
 18:00 開演 2回公演 **新宿文化センター大ホール**

SS席 10,000円 / S席 8,000円 / A席 6,000円 / 車椅子スペース 有 (お問い合わせください)

<後援> 早稲田大学 / 駐日 リトアニア共和国大使館 / 新宿区教育委員会 / 日本リトアニア友好協会
 NPO 杉原千畝命のピザ / 杉原千畝研究会・大正出版 (他 申請中)
 <協賛> (株)オンワード樺山 / (株)カインズ / (株)京王エージェンシー / (株)ナガホリ / マーシャルコレクション
 (株)マルハ / ラブラヴォーチェ (他 受付中) 主催:杉原千畝物語 オペラ「人道の桜」制作委員会

歴史的史実をそのまま<再現>したオペラ！

2015年5月にトアニア
国立劇場にて世界初演



実際に千畝が窓から撮影した写真

< 日本語上演 + トアニア語字幕 >での
世界初演(オーケストラ伴奏)は、会場全体が
スタンディングオベーションとなりました！



「忘れもしない1940年7月18日の早朝の事であった。6時少し前、表通りに面した領事公邸の寝室の窓際が、突然人だかりの喧しい話声で騒がしくなり、意味の分からぬわめき声は、人だかりの人数が増えるためか、次第に高く激しくなっていく……私は急ぎカーテンの端の隙間から外を伺った。何と、これらは大部分がヨレヨレの服装をした老若男女で、色々の人相の人が、ざっと100人も公邸の鉄柵に寄りかかって、こちらに向かって何かを訴えている光景が目に入った。」
(千畝の手記より)



千畝の発給したビザ



2015年 7月 千畝の母校
早稲田大学大隈記念講堂
<日本初演(ピアノ伴奏)>
2015年 12月 品川きゅりあん公演
<日本初演(オーケストラ伴奏)>

千畝が救ったユダヤ人は6,000人。
犠牲となったユダヤ人は6,000,000人。
千畝が救えたのは1,000人のうちの、本当に幸運なたった一人ということだ。

ナチスドイツは政権を取ると、「ユダヤ人を迫害するための法律」を作り第2次世界大戦開始後はさらにエスカレートしていった。

「ラジオ所有禁止」「公務からの追放」

「医師・弁護士免許の取り消し」

「ドイツ人との結婚の禁止」「公共施設の利用禁止」

「外出制限(黄色いグビデの星をつけた上着を着る)」

ユダヤ教会や店は壊され、略奪され、そしてユダヤ人は専用居住区

(ゲットー)に移され、劣悪な環境で伝染病が蔓延。飢餓と病で多くのユダヤ人が命を落とした。さらに1942年に開かれたヴァンゼー会議でナチスはユダヤ人の大量虐殺を決定。毎日何千人というユダヤ人がゲットーからヨーロッパ中に建てられた収容所へトラックや列車で輸送され殺されていった。

そのもっとも大きな収容所がアウシュビッツなのである。

(千畝の手記より)

「私は考え込んでしまった。

元々彼らは私にとって、何のゆかりもない赤の他人に過ぎない。

いっそのことビザ発給拒否を5人の代表だけに宣言し、領事館オフィスのドアを封印しホテルにでも引き上げようと思えば、物理的には実行できる。しかも私は本省に対し、従順であるとして褒められこそすれと考えた。

私は考え込んだ。

仮に、本件当事者が私ではなく、他の誰かであったならば、百人が百人<拒否>の無難な道を選んだに違いない。なぜか？

文官服務規程というような条文があって、その何条かに縛られて<昇進停止>とか<減首=解雇>が恐ろしいからである。私はこの回訓を受けた日、一晩中考えた。

家族以外の相談相手は一人も手近にいない。

とにかく、果たして、残慮、無責任、我武者羅の職業軍人集団の、対ナチ協調に迎合することによって、全世界に隠然たる勢力を有するユダヤ民族から、永遠の恨みを買ってまで、旅行書類の不備とか、公安上の支障云々を口実に、ビザを拒否しても構わないとでもいうのか？それが果たして国益に叶うことだというのか？

苦慮の挙句、私はついに 人道主義、博愛精神第一という結論を得ました。

そして私は、何も恐れることなく職を賭して、忠実にこれを実行し終えた、今も確信している。」



千畝が6,000人のビザを発給した執務室。現在は「杉原千畝記念館」として公開されている。

正義と真心により
多くの人を
窮地から救った
杉原千畝の
人生と歴史



新宿文化センター案内図

都営大江戸線「東新宿駅」(A2出口) 徒歩 5分
都営新宿線「新宿3丁目駅」(C7出口) 徒歩 6分
西武新宿線「西武新宿駅」 徒歩 13分
JR・京王線・小田急線「新宿駅」東口 徒歩 13分

〒160-0022 新宿区新宿6-14-1